

イヌエンジュの植栽地について (中間報告)

上田・経営課 鈴木 和雄

はじめに

近年森林の公益的機能や森林景観に対して広葉樹の評価が高まっております。当署における人工造林地の殆がカラマツ・ヒノキの針葉樹で占めております。このような現状の中で、最近におけるカラマツ材価の低迷、ヒノキ造林地におけるカモシカの食害など問題が生じております。したがって、今後広葉樹の造成は重要であり増加するものと予想されます。当署において、昭和48年度と54年度に植栽したイヌエンジュの造林地が良好な生育をしており、施業経過が明らかな2箇所について調査を実施したので報告します。

1. 上田営林署管内の概要

図-1のとおり、人工林は54%でその殆がカラマツ・ヒノキの針葉樹となっています。天然林(46%)の内、広葉樹は27%ありますが大部分は旧薪炭林が放置されたまま生育した二次林で、低質林分となっています。

人工造林地の広葉樹は10ha余りでイヌエンジュ・ケヤキ・クリ等が生育しております。

イヌエンジュの植栽地は5.85haありますが、今回調査した箇所は施業経過の明らかな130ろ林小班(No 1)と、52る林小班(No 2)について調査したものです。

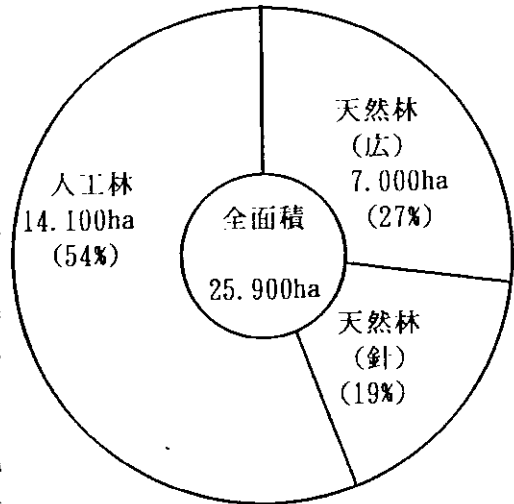


図-1 管内人天別の内訳

2. 調査地の概要

調査地No 1は千曲川を境にした川西地区の和田村に位置し、県道男女長門線を1km入った地点にあり、No 2は川東地区の真田町に位置し、洗馬林道を3km登った地点に植栽されています。

両植栽地とも沢筋で日当たりも良く傾斜地で湿潤な肥沃地、土壌型も褐色森林

上でエンジュの生育条件に適していたものと思われます。(表-1)

表-1 植栽地の概況

NO	国有林	小班	面積	標高	傾斜	方位	土壌型	位置	気温	雨量
1	和田山	130ろ	0.85 ha	1.350 m	5~ 10°	NE	褐色 森林土	斜面 下部	6.5c	1.050 mm
2	傍陽山	52ろ	0.47 ha	1.190 m	15~ 32°	NW	褐色 森林土	斜面 下部	9.7c	900 mm

3. 施業経過

NO1の前生樹は、オニグルミ・イヌエンジュ・その他広葉樹の混交林であった林分を昭和47年度製品生産事業で伐採した跡地に昭和48年度山引苗800本植栽しています。この時点でぼう芽125本ありました。(面積0.85ha)保育は48~50年度に下刈3回、49年度施肥、55年度除伐を行っております。

NO2の前生樹は、カラマツ人工林で53年度に立木販売した跡地に、昭和54年度2,100本植栽しています。(面積0.47ha)保育は54~56年度に下刈3回、55年度に施肥を行っております。

4. 調査結果

調査結果は表-2、表-3のとおりで、林分構成を表-2で見るとNO1ではナラ・イヌエンジュを主体とした広葉樹の混交林となっています。NO2ではイヌエンジュの純林となっています。

表-2 樹種構成状況

樹種	N/ha	D(根元)	H	構成比	樹種	N/ha	D(根元)	H	構成比
エンジュ	436	8.8cm	3.2m	25%	エンジュ	1.040	7.6	4.1	100
キワダ	174	8.5	7.0	10					
ナラ	611	8.0	5.9	35					
カンバ	262	8.7	5.0	15					
クルミ	87	10.0	9.0	5					
サクラ	174	7.5	6.5	10					
計	1.744	8.8	5.4	100		1.040	7.6	4.1	100

(NO1 130ろ林小班)

(NO2 52ろ林小班)

表-3はイヌエンジュの生長を表したものです。年平均生長量はNO2が上回っておりますが、原因としてNO1は、山引苗を直接植付けたことで苗にばらつきがあったことや、後から発生したカンバ等の広葉樹に被圧されたことなどが考えられます。

また、NO2の植栽本数の減少については、植付け当初に野鼠にり50%余り食害を受けたことが大きな原因となっております。

表-3 イヌエンジュの生長

林小班	項目 調査時	林齢	h a 当り	平 均		備 考
			N	D (根元)	H	
NO 1	S 4 8		9 4 1	2. 2	1. 4	() は本数減
1 3 0 ろ	H 3	1 8	4 3 6	8. 8	3. 2	
0. 85ha	差		(5 0 5)	6. 6	1. 8	
NO 2	S 5 4		4. 4 6 8	1. 3	1. 4	
5 2 る	H 3	1 2	1. 0 4 0	7. 6	4. 1	
0. 47ha	差		(3. 4 2 8)	6. 3	2. 7	

5. 今後の施業方法

有用広葉樹に対する期待は今後増大することが予想されることから、NO1については、ナラ・イヌエンジュを主体とした混交林として施業することとし、天然のカンバ等競合する樹種について調整しながら混交林の造成を図っていきます

また、NO2については、千曲川上流収穫予想表と比較すると成立本数はかなり低位にありますが樹型は、ほうき状ですでにうっぺい状態となっているので、一部枝打ちを計画しイヌエンジュの成林を期待します。

おわりに

当署における広葉樹の人工造林地は少なく、施業体系も確立されていない現状ですが、今回の調査からエンジュの造林は可能であることが明らかになりました。

今後は、更に綿密な調査計画を立て、貴重なイヌエンジュ造林地の調査を継続実施して参りたい。